

# 会 議 録

□全部記録 ■要点記録

<b>1 会議名</b>	第3回 姫路獨協大学在り方審議会
<b>2 開催日時</b>	令和3年11月19日(金) 13時15分～16時5分
<b>3 開催場所</b>	アクリエひめじ 4階 会議室402
<b>4 出席者又は欠席者名</b>	〔出席者〕 姫路獨協大学在り方審議会委員 14人 〔関係者〕 姫路獨協大学 1人 〔事務局〕 政策局高等教育・地方創生担当理事、高等教育室長、高等教育室係長 2人
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴人 15人
<b>6 議題又は案件及び結論等</b>	1 開 会 2 挨 拶 3 審議会の趣旨と確認事項 4 議 事 (1) 姫路獨協大学からの補足説明について (2) 財政シミュレーションについて (3) 姫路獨協大学の今後の在り方について 5 その他 6 閉 会
<b>7 会議の全部内容又は進行記録</b>	詳細については別紙参照

事務局	<p>1 開 会</p> <p>第3回姫路獨協大学在り方審議会を開会する。</p>
理事	<p>2 挨拶</p> <p>(政策局高等教育・地方創生担当理事挨拶)</p> <p>本日はご多用の中、第3回姫路獨協大学在り方審議会にご出席いただき感謝申し上げます。委員の皆様におかれては、10月に開催させていただいた第2回審議会において終始熱心にご議論いただき、重ねて御礼を申し上げますとともに、会議が長時間にわたりご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。</p> <p>さて先般、日本経済新聞社において、全国761の国公立大学・私立大学を対象に地域貢献度調査が行われた。人材育成や研究成果など、大学は地域社会にどれだけ貢献しているか。総合ランキングでは、名古屋市立大学が1位で、上位は地方の国立総合大学が占めているといった結果であった。国の方では、地方創生の掛け声のもと大学の地域貢献を求められており、さまざまな大学で具体的な取り組みが進められている。</p> <p>このような状況も踏まえつつ、姫路獨協大学の今後の在り方につきまして多角的な視点でご議論いただきたい。限られた時間ではあるが、委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。</p>
会長	<p>3 審議会の趣旨と確認事項</p> <p>すでに来年度の姫路獨協大学の入試がスタートしていることを認識していただきながら、姫路の高等教育のために積極的なご提言をお願いしたい。</p> <p>今まで2回の審議会を開催し、この審議会の趣旨と検討項目をもう一度再確認しておく必要があると認識した。審議会の趣旨についての再確認をお願いしたい。</p>
事務局	<p>資料1「姫路獨協大学在り方審議会の趣旨と検討項目について」説明</p>
委員	<p>高等教育は市の管轄ではなく国の管轄であり、なおかつ、姫路獨協大学については獨協学園という母体がある状況の中で、この審議会では、公立大学法人化しない場合に「事業譲渡」「廃校」「自主再建」まで触れていくと考えればいいのか。</p>
事務局	<p>公立大学法人化しない場合の選択肢については、学校法人獨協学園が決められる</p>

委員	<p>ことではあるが、公私協力方式で開学した経緯を踏まえ、何らかの要望はしてまいりたい。</p> <p>事業譲渡・自主再建となれば、経営の話になるので、財務諸表の収支を拝見しながら検討する必要がある。</p>
委員	<p>できれば、4回目5回目に、どういうスケジュールで何を審議するのか、改めて確認しておきたい。事業譲渡にしても廃校にしても、それぞれ収支がどうなるか、或いは影響がどうなるかの試算は必要であり、公立大学法人化のシミュレーションについて、その資料がいつ提示されるのか、いつ議論できるのか確認したい。</p>
会長	<p>議論に必要な資料は、本日、可能な範囲で提示いただきたいと考えている。</p>
	<p>4 議 事</p> <p>(1) 姫路獨協大学からの補足説明について</p>
会長	<p>姫路獨協大学からの説明を求める。</p>
姫路獨協大学	<p>資料2の1ページ目は、経済波及効果を分析していただいた浦山准教授に、質問の回答をいただいたものである。3ページでは年度ごとの波及効果について、グラフで示している。浦山准教授が姫路獨協大学に在籍した期間は、2006年4月から2019年3月であるが、現在も非常勤として月2コマの会計学関係の授業を担当していただいている。</p> <p>次に4ページをご覧ください。入学者の傾向等について、①では広報対象地域を示している。教員はその所属学部の新入生や、卒業生の出身校を中心に回っており、職員は訪問時にすべての学部・学群について説明している。</p> <p>入学者の地域別の分布については、5ページ以降に示している。大学全体の分布を見ると、兵庫県が8割以上となっている。6ページは人間社会学群で兵庫県が9割近く、7ページは平成18年に設立した医療保健学部で、こちらも兵庫県が8割以上となっている。8ページの薬学部は少し異なっており、兵庫県に次いで大阪からの入学者も比較的多いというのが特徴である。兵庫県の内訳を見ても、一番多いのが神戸市となっており、広範囲から入学者が来るということが分かる。最後に9ページは看護学部で9割近くが兵庫県、その内訳も中播磨、東播磨、神戸の順でJ</p>

	<p>R神戸線沿いからの入学者がその多くを占めている。しかしながら、JR姫路駅からバスで25分かかる立地は、不利に働いていると考えられる。都会志向が強い若者には、なかなか西の方に目を向けていただけないという分析をしている。</p>
会長	<p>薬学部の入学者が特に減っているが、播磨地区からの入学者が減っているのか。</p>
姫路獨協大学	<p>全体的に減っている。最近、薬学部の志願者が近畿圏で大幅に減っている。18歳人口の減少以上に減っているなので、その影響が一番出ているのが薬学部となる。</p>
会長	<p>私立の薬科大学では、そういう問題は起こっていないと聞いたが。</p>
姫路獨協大学	<p>神戸市の薬学部については、ほぼ充足している。</p>
委員	<p>経済波及効果の解析をされた浦山先生の略歴が1ページ目にあるが、姫路獨協大学の財務状況等を調査・分析して評価する業務に関して、約13年間、2019年3月まで在籍された方がされるという点をどう考えているのか。客観性を必要とする学内の調査を依頼する場合、当該大学から大体3年間は全く関係のない方を選ぶのが通常である。</p>
会長	<p>姫路獨協大学で依頼されたのか。</p>
姫路獨協大学	<p>その通りである。これは審議会が始まる前に依頼したもので、委託研究として実施していただいた。</p>
会長	<p>調査委託経費としても、39,000円という金額はかなり安いのではないかと。</p>
委員	<p>大学で何か問題が起こったときに学内の調査を委託する場合は、当該大学にこんなに最近まで在籍された方に依頼しないのではないかと。</p>
姫路獨協大学	<p>審議会で提示することは、委託時には考えていなかった。本学が30周年を迎えるにあたって、どのぐらいの経済効果があったか知るための研究であった。そのあと要望書を提出することになり、審議会で参考文献としてこの解析を提示した。何か問題があって調査を第三者に依頼したというよりは、本学が把握しておくために</p>

委員	<p>調査したもので、要望書提出の際、新たな分析をする時間がなかったこともある。</p> <p>時間が取れないというのは、説明にはならないと思う。</p>
会長	<p>この調査は、経営状態を含め定期的に行っている調査として依頼されたということか。</p>
姫路獨協大学	<p>2019年に学長に就任して以来、初めての調査である。</p>
会長	<p>大学の状況を把握するために定期的にされているのか。姫路市ではどうか。</p>
事務局	<p>姫路市では経済波及効果についての計算は特にしていない。</p>
委員	<p>この参考資料を用いて我々が最終的に公立大学法人化を決めたとなると、公正な資料・情報の下で行ったのかが問題となる。私たちはこの資料を公認した上で公立大学法人化を議論しているとなれば、この会議の信頼性の問題にならないだろうか。浦山先生が姫路獨協大学の関係者であるならば、慎重に取り扱う方がよい。</p>
委員	<p>定期的を実施していた中で、たまたま内部資料として今回出されたのであればやむを得ないが、今回の審議会に提示する資料として依頼されたのであれば、このまま資料として了承し難い。</p>
会長	<p>続いて、本日の追加資料として姫路獨協大学の財務資料が委員の皆様のお手元にある。この財務資料についても説明いただきたい。</p>
姫路獨協大学	<p>3ページの事業活動収支内訳表をご覧いただきたい。基本金組入前当年度収支差額は、令和2年度で4億円弱の赤字で、学部ごとでは、令和2年度で黒字となっているのは看護学部のみである。貸借対照表については、固定資産は229億で、固定負債の長期借入金、流動負債の返済1年以内の長期借入金については、いずれも私学事業団からの借り入れである。現在、本学の借り入れはこの2つのみで、令和2年度末現在の借入金は3億5,000万円余りである。</p>
委員	<p>3ページの事業活動収支内訳表では、教育活動収支差額、経常収支差額ともにマ</p>

	<p>マイナスの状況で、しかも特別収支差額もマイナスでかなりの金額となっている。また、実際のキャッシュが本当に何億しかないので、この先このまま経営していくにしても、抜本的な改善が必要である。</p> <p>しかしながら、改善するにしても、キャッシュがない状況でやっていくのはかなり厳しく、仮に公立大学法人化すれば運営交付金に依存することになるが、運営交付金でもこれだけ全部対応するのは難しいと思われる。今後、どのように赤字を改善しようと考えているのか、その思いをお聞かせいただきたい。</p>
姫路獨協大学	<p>現在も改善を継続中であり、文系学部については平成 28 年度に 3 学部体制を 1 学群制に変更し、人件費の削減を継続的に図っているところである。徐々にマイナスを縮小している。</p>
	<p>医療保健学部については、平成 30 年にこども保健学科の学生募集を停止し、それによって人件費の改善を図っているところである。</p>
会長	<p>負債について、公立大学法人化の時に、姫路獨協大学独自で埋められる方法をお考えか。</p>
姫路獨協大学	<p>公立大学法人化に際しては、第 1 回審議会の時に獨協学園本部から説明した通りで、負債についてはすべて清算した上で、公立大学法人化ということである。獨協学園全体として、きちんとした形でお渡しするというをお伝えした。</p>
会長	<p>姫路市の高等教育や姫路獨協大学の現状、全国の私立大学の公立大学法人化した事例等いろいろな議論があり、この補足資料も誠実に姫路獨協大学から提示いただいた。ただ、経済効果の調査に関しては姫路獨協大学に関係の深い方がされた点で、その客観性について疑問は一部残っている。</p> <p>ここで、私の方から提案したい。公立大学法人化された場合におけるシミュレーションをどこまでやるかということについては、前回の会議で多くの指摘があったが、今後の審議を進めるに当たり、公立大学法人化によって入学定員が充足された場合のシミュレーションを、参考として提示いただきたいと考えるがいかがか。</p> <p>本日、この後の議論のためには、シミュレーションをご覧いただく必要がある。姫路獨協大学は創設後 30 数年たっており、今後、補修工事の必要性が出てくることは予想される場所である。改修費を含めた財政シミュレーションを提示いただきたいと思う。</p>

委員	シミュレーションの提示は、会長の責任で提案されているのか。また、作成者について確認したい。
会長	前回の審議会でも幾つかの議論が出て、最終的にまとまる段階まではいかなかったが、我々がさらに次のステップに入るために、現時点で参考にできる資料として、財政シミュレーションが必要であるとする。姫路獨協大学の補修工事を含め、一般的なシミュレーションでどのような経費がかかるか、この時点での提示が必要であると判断した。その内容については、事務局が作成したものである。
委員	姫路市が作成したものなら、ぜひ拝見したい。もし公立大学法人化される場合には、税金が使われると思う。財源がないのに、公立大学法人化を受けとめるとは言えない。責任の所在については分からないが、私は責任をもって拝見したい。
委員	最終的には多数決で決めてはどうか。
会長	それではシミュレーションに関して、前回の議論の中で出された多くの意見全てを満たすものではないが、今回ご提示いただくことに賛成の方は挙手を願いたい。  (賛成多数)
委員	この審議会で皆さんと共有したとしても、最終的にそれを一般公開するかどうかは慎重に考えてほしい。
会長	議論を公開するということと、すべての資料を公開するということは別である。賛成多数をいただいたので、事務局からの説明を求める。  (2) 財政シミュレーションについて
事務局	追加資料「財政シミュレーションについて」説明
会長	姫路獨協大学から意見があれば伺いたい。
姫路獨協大学	8 ページで、講義棟 I・II の大規模改修経費が 25.8 億円ということであるが、20 億円強で建築されたものであり、建築費より大きい金額となっていることは少し

	<p>驚きである。本部棟と講義棟は、2014年度に内装や外壁の防水・空調等について約6～7億円をかけて改修済みである。厚生棟は、約1億5,000万円で改修しており、体育館は2020年度に約1億円かけて天井の張り替え、屋根の修理、耐震補強等を行っている。2014年頃から総額約11億5,000万円の経費をかけて適宜修繕をしてきた。説明で最大という言葉があったが、建て替えに近いほどの大規模な改修を行うとこれほどの金額になるのではという感覚である。本学の計画では、今後、令和10年度までの改修経費として約10億円強を見込んでいるので、姫路市のシミュレーションについて驚いているところである。</p>
<p>会長</p>	<p>公立大学法人化によって定員が充足され、また、医療系学部の建物改修費用については含まれていない段階で、このようなシミュレーション結果が報告された。</p>
<p>委員</p>	<p>1点目、4ページの人件費について、教職員の人数は現状維持ということであるが、年齢構成はどう考えたのか。2点目、大規模改修経費の単価は解体費も含んでいるのか。3点目、10年前の単価を使っているが、ここ数年の高騰ぶりは目を見張るものがあり、現在単価で試算するとどうなるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回、年齢構成については考慮していない。公立大学の平均単価に、現在の専任と非常勤の教員、職員の人数を掛けて算定している。結果的に、姫路獨協大学の現在の人件費と変わらない数字になった。2点目については、改修工事であるので解体費は含んでいない。3点目について、現在でも、他の多くの自治体において、公共施設の改修費の試算にこの単価が使用されている。</p>
<p>会長</p>	<p>人件費に関して、姫路獨協大学としてどのような見解を持っているか。</p>
<p>姫路獨協大学</p>	<p>第1回審議会でも説明した通り、現状では定年退職した教員の補充をしないという形で人件費の削減を図っている。現在の年齢層は比較的高いかもしれないが、今後は若くなっていくと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>姫路獨協大学の今の教職員が横滑りするという前提で、その平均年齢は、公立大学の平均値と比較してどうなのか。また、人件費は毎年約2%ベースアップするが、それを見込んでいるのか。賞与については、現在満額支払われていないと聞いているが、その辺はどう見込んでいるのか。</p>

事務局	公立大学の給料を人数で割った平均値を使っているの、ベースアップは考慮しておらず、また賞与がいくらという積み上げではない。平均年齢については、現在の姫路獨協大学の教員の方が高くなっていると思う。
委員	大規模改修について、耐震設計はもう終わっていると考えてよいのか。
姫路獨協大学	2014年から2016年にかけて耐震補強工事は終わっている。
委員	もし地震等で崩れた場合は、すべて大学当局の責任になる。公立大学法人化した場合、特に耐震は完璧にしなければならない。再度確認してほしい。
事務局	今の段階では詳細な調査を実施していないが、もし公立大学法人化すれば耐震調査及び補強工事を行っていく必要がある。
委員	耐震調査は文科省からすべての私立大学に義務付けされている。それを出してもらえばいい。耐震調査は1,000万円近くかかる。
副会長	公立大学法人化ということになったときには、耐震調査を行い、必要な工事をきっちり行う必要がある。
会長	姫路市の公共施設の基準はどうなっているのか。
事務局	国の耐震基準をクリアできるように対応している。
委員	5ページ下段の収入は、運営費交付金という形で、税財源でフォローしていくということを赤裸々に表している。さらに大規模改修経費がかかる。先ほど大規模改修経費が過度に出ているのではという意見があったが、公立大学法人化するのであれば法定基準を満たすことを目安とするのが当然である。9ページの収支の金額が、公立大学法人化するかしないかの議論のためのデータになると考える。また、事業譲渡・自主再建・廃校という選択肢の目安として考えた場合に、譲渡の受け手がいるのだろうかという印象を受けている。この試算を行った姫路市の見解を聞きたい。

事務局	公立大学法人化したと仮定した場合のシミュレーションであり、譲渡の受け手があるかどうかを踏まえて作成している訳ではない。
副会長	現在、大学ではDXが進んでおり、Wi-Fi の整備等に多大な経費が掛かる。年間2億、3億円くらいすぐに掛かるので、その経費についても考えておく必要がある。
会長	人件費に反映されるといったことは。
副会長	DX人材も必要であるし、設備としても、学生が全員インターネットをつなげるような環境を作っていかなければならない。
事務局	(3) 姫路獨協大学の今後の在り方について 資料3「姫路獨協大学の今後の在り方について」説明
委員	資料3は、最終的な答申書の骨子というイメージがあるのか。
会長	今までの審議会について一通りまとめたものであり、これから議論を行う。
委員	議事録が一番詳しい内容で、その議事録と照らし合わせて相違がなければよい。これまでの議論のまとめとするのであれば、これまでの議論と書くべきである。資料1には、公立大学法人化と、事業譲渡、廃校の3つが書かれているが、各々について議論したわけではない。今後しっかり議論をする必要があるということを加える必要がある。資料3のタイトルは、「これまでの議論の経過」とするべきと考える。
委員	教育の主体は、学び続ける子供たち学生たちであり、市場価値のある人の育成だけではなく、姫路市民あるいは日本国民にとって、幸せを追求するとか、より生きやすい方法を考えるとかという部分が、もう少しベースに欲しいと思った。廃校になったとしても、子供たちの学びが続くような希望を持って考えていきたい。特にこのコロナの時代、不安を持っている若い人たちを、数字だけで切ってしまうのは酷であると感じる。
委員	姫路市の将来の子供たちが教育のチャンスを失ってしまうのではないかと、という

	<p>視点で考えられた意見だと思う。</p>
委員	<p>この審議会の結果を姫路獨協大学に返した時に、姫路獨協大学がどう選択するかは、姫路獨協大学にかかっている。公立大学法人化しない場合、廃校という選択をされるのであれば、それは仕方がないのではないか。</p>
会長	<p>この審議会で最終的な姫路獨協大学の立場まで決めるというわけにはいかない。ここで、経済波及効果と赤字の部分は、埋め合わせができるのか、説明していただけないか。</p>
委員	<p>経済効果については、意見を控えさせていただきたい。あくまでも参考とするのは財務資料である。財務資料3ページによると、毎年度の収支がマイナスで続いており、経営的にかなり難しい状況にある。抜本的な修繕費がかかる年は、マイナスが桁違いに大きくなるだろう。かなりリスクの高い状況にあるという印象を受けている。</p>
会長	<p>経済効果を姫路市の利益と考えることは間違いであるのか。</p>
委員	<p>それは間違いではないが、教育投資の生の効果というのは、シミュレーションの変数だけで決めつけていいのかという懸念があり、意見を控えさせていただいた。</p>
会長	<p>姫路獨協大学の在り方について、それぞれのお考えを伺いたい。</p>
委員	<p>もし公立大学法人化するのであれば、部分的に薬学部だけ除くといったことなく、すべてを引き継いでいただきたい。</p>
委員	<p>市が運営していくのは難しいのではないかと思う。ただ、公立大学法人化しない場合、そこから先は獨協学園の判断になるが、今残っている学生たちがどうなるかということだけは、しっかりと確認をして欲しいと思う。</p>
委員	<p>令和15年以降になると、15周年記念館、薬学部棟、看護学部棟の改修が引き続き出てくる。全体的に前倒しで実施している状況から考えると、令和12年頃から改修の準備が始まることになり、費用的な部分は相当厳しいというのが率直な感想</p>

	<p>である。姫路市が本当に、維持、運営することができるのかというのは、今の段階では非常に疑問である。</p> <p>さらに、財務資料によると赤字が発生している中で、現金預金は非常に少ない。負債は獨協学園が清算するという話もあるが、市が出資した 50 億円についても返してもらおうということも考えていただかなければ、なかなか市民の了解は得られにくいのではないかと思う。</p> <p>公立大学法人化というのは厳しい部分があると思うが、仮に公立大学法人化しないとなったときに、姫路獨協大学として自主再建をしようという意思があるのか、獨協学園としてはどうしたいのか非常に気になる。何としてでも、この姫路の中でやっていくつもりがあるのか。それによっても、皆さんの捉え方は変わってくるのではないか。</p>
委員	<p>数字を見て正直厳しいと思った。公立大学法人化という前提とは少し違うかもしれないが、もし事業を買うとなったときに、自分たちの力で、今のこの現状をきちんと立て直すことができるのかということを最初に考えると思う。その際、資金はいいとしても、どうやって学生を集めていくのか、大学の魅力はどうやって作っていくかということと、誰がここを立て直すのかということを考えると思う。それをされる覚悟が、本当に姫路市にあるのか。</p> <p>また、これだけ投資して、まだ赤字が出ることを市民が納得されるのかということ、それでもやるという思いのバランスをどうするのか疑問である。どうしてもやるのであれば、投資をして回収することをきちんと立証できなければ先に進まないと感じた。</p> <p>もしくは、教育というものはお金だけではないという 2 軸で見るのであれば、どんな教育を行って、優秀な人材が姫路市や近隣に就職して、良い成果を出すというところまで絵が描けないと、非常に厳しいのではないかと感じた。</p>
委員	<p>学生にとって公立の大学ができるということは、学びの選択肢が増えるということであり、そこは積極的に考えていきたいと思うが、今の赤字をどういうふうに埋めるのかということについて、具体的にイメージできるように提示していただきたい。公立大学法人化が実現しなかった場合、姫路獨協大学はどのように今後経営していくのかということも、審議会の中で考えていくべきではないかと思う。</p>
委員	<p>姫路獨協大学は、キャンパスの環境も素晴らしいと思う。ただ、公立大学法人化</p>

	<p>については、市内の他の学校法人、特に私立の方達はどう思われるだろうかと思う。姫路獨協大学は、近隣の医療機関に人材を供給するほか、医療現場で働く職員に対しての専門教育も行っている。本市には医療系の学部がある大学が少ないので、こういう形でも大学が残ればありがたいと思うが、経営面を見ると、現実的には難しいと感じる。もし廃校等になれば、県立はりま姫路総合医療センターに入居する獨協学園姫路医療系高等教育・研究機構はどうなるのか気になるところである。</p>
委員	<p>現状でも医療系人材は不足していると言われており、今後も高齢化社会でニーズは高まると考えられる。経営に関しては、サイズダウン等していかないと立て直しは難しいかと思う。廃校というのは、ハコモノもあり、伝統もあり、また、姫路市民の心情を考えると、なかなか難しいという印象である。一方で公立大学法人化も市として厳しい、自主再建も姫路獨協大学として難しいということなので、あとは、事業譲渡の可能性があれば選択肢の1つだと思う。</p>
会長	<p>廃校は非常にもったいないという考えか。</p>
委員	<p>医療人材不足の背景から、可能であれば、やはり教育機関として存続していただきたい。</p>
委員	<p>公立大学法人化した場合の収支のことが今日はっきりと分かった。少子化で学校施設が統廃合されている中、一般会計からこれだけの大きなお金が出ていくということに市民が納得するだろうかという不安がある。この62.5億円の大規模改修経費は決して過大ではないと思う。税収入が減っている中から経費を出す現実と、存続させたい現実。何らかの方法で残してほしいと思うが、公立大学法人化して姫路市が負担するというのはどうかという気持ちである。</p>
委員	<p>すべての資料を信頼して意見を述べていいのかどうかについては、まだ疑問があるが、この現状の資料で考えた私の意見を述べる。収支不足も非常に大きく、今後かなりのお金を投入しないといけない、そういう中、最終的には、姫路市が高等教育に関してどう考えているか、どこまで重視されるか、それがすべてだと思う。ここまでお金を投入しても高等教育をちゃんと維持したいと思えるのであれば公立大学法人化ということもあるかもしれない。結局それはもう市の財務状況の中で考えることだと思う。公立大学法人化しない場合は、それは市の判断であるので尊</p>

委員	<p>重したいと思うし、その後は獨協学園が考えられることで、廃校か、事業譲渡か、自主再建か、獨協学園自身の問題だと思う。</p> <p>公立大学法人化するにしても、事業譲渡するにしても、姫路市としてどういった条件で進めようとしているのか、この判断に尽きる。通常、民民の事業譲渡であればこういう審議会に諮る必要はないかもしれないが、姫路獨協大学の場合は、公私協力方式で立ち上げたわけで単なる民民継承ではない。市内で同じく私立大学を運営している立場としては、勝手にやってもらっては困る。つまり姫路市が出す条件によっては、大学間の公平性、公正な民間競争を阻害する懸念がある。</p>
委員	<p>教育の主体は忘れないようにしたいと思いつつ、現状からはスリム化は避けて通れないと感じる。細かいことであるが、公立大学法人化した場合、定年が5年程早くなり、その分の人件費は少し減るだろう。かつて丹波篠山には、県立の農科大学があり、町ぐるみでその農科大学の応援をしており、学生と住民が非常に近いものであったが、ある時国立移管で神戸大学の農学部になり、大学生が全部町からいなくなった。まちの様子、文化が変わったのを強く感じたことがあった。</p>
委員	<p>財政的にも、周辺の大学等の状況から鑑みても、公立大学法人化しないということが、一つ結論だと思っている。事業譲渡、自主再建、廃校については、まだ議論が十分とは思えないので、今後の2回の審議会でも検討していくとよい。</p>
副会長	<p>皆さんの意見を伺い、姫路市がどこまで関与する腹があるのかというのがまず一つ目の大きな論点かと思う。この審議会が開かれていること自体、公立大学法人化は慎重に検討すべきということであると思うし、また多額の赤字という資料も出てきており、これを市が経営して本当にうまくいくのかということも懸念されるが、結局、今の皆さんの意見によると、公立大学法人化は難しいということではないか。姫路市には公立大学法人化するだけの気持ちはないと私は感じているので、そこが結論ではないか。事業譲渡というところまで我々が踏み込むべきなのかどうかは分からないが、廃校にとは口が裂けても言えない。これからどう議論するのかは、姫路市と姫路獨協大学の意見を伺ってという形になると思う。</p>
会長	<p>岡山と神戸の間で、姫路市という文化・歴史のある土地に、高等教育の拠点としてこれまで存在してきた大学は大変貴重なものである。教育という、次世代の人材</p>

	<p>育成は極めて大切であり、将来の姫路市のさまざまなことに繋がると考える。存続はもちろん可能な場合であって、ない袖は振れないが、そのような気持ちでいる。皆さんの意見を伺いながら、姫路市が全力で取り組むのか、事業譲渡か、現在でこれしかないという結論を出すのはなかなか難しいかもしれない。</p>
委員	<p>姫路獨協大学を公立大学法人化したときに、非常に経営状況が良くなって再生できるという一種のゲームチェンジャーのように考えるのは非常に危険だと思う。高等教育について、姫路市が責任を持って、市民の理解を得て、どう考えるか、それだけだと思う。例えば、赤字続きの病院に、住民の福祉のため、住民の理解の中で毎年何億円も補填するという自治体はいくつもある。姫路市の財務状況や長期的な展望は全くわからないが、それは、姫路市民と議会の方々がじっくり議論されることだと思う。</p>
会長	<p>公立大学法人化、事業譲渡を含め、在り方はこれしかないという提案を出すのは難しいかと思うが、いくつかの可能性について意見をいただいた。これから、この審議会の意見としてまとめていく作業に入りたいと思うが、それまでに必要なデータがあれば提案いただきたい。また、この審議会は今年の入試に大きく影響するので、報道関係の方については姫路市の高等教育の現場のことを考えた冷静な報道をお願いしたい。</p>
委員	<p>姫路獨協大学はこれまで学部を改編するなど、何度か再建の計画をされているが、財務状況が黒字化することを見込んでその再建計画を作成されたのか。実際問題としては赤字が発生しており、大きく食い違っている。</p>
姫路獨協大学	<p>平成 18 年に医療保健学部、19 年に薬学部を設置したのは、文系で赤字が出ており、何とか黒字に戻そうという意図であった。薬学部で定員割れをすることはありえないという予測のもとで設立した。薬学部は平成 30 年度までは黒字を保っていたが、ここ 4～5 年は定員割れが生じ、トータルとして赤字が続いている。文系 3 学部を 1 つにして縮小化を図り、人件費を削減しながら赤字を小さくするという計画を立てて進めてきた。まだ、なかなか思い通りに学生が集まらないという状況もあり、今日示したデータとなっている。今のところ、縮小化に向けた施策の途中であり、引き続き人件費が削減されていく見込みである。</p>

会長	次回は今回の議論を踏まえて議論し、できるだけ意見を集約する方向にしていきたいと考える。以上で本日の審議はすべて終了した。事務局に返す。
事務局	5 その他 次回の会議は令和4年1月25日火曜日午後を開催する。時間と会場については、決まり次第連絡する。  6 閉会